2025年度　　授業概要

科目名	小児聴覚障害					授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15	回	時間数	30	時間　1 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	ST2年　前期

【授業の目的・ねらい】
小児を中心とした聴覚障害について学び、療育に必要な検査方法や指導方法が理解できる。
聴覚補償機器の利用や療育について学び、就学や家族支援について考える。

【実務者経験】
診療所、児童発達支援にて、言語聴覚士として小児の聴覚障害および発達障害分野の療育に従事する。

【授業全体の内容の概要】
小児期の聴覚障害と言語発達への影響について理解できる。
障害特徴と評価・訓練・指導の基本的知識および国家試験に則した基礎知識を身につける。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】
聴覚障害が小児期に及ぼす影響について理解できる。
聴覚障害の特徴や評価方法、療育で必要な基本的知識および国家試験に則した知識を身につける。

回数	講義内容	準備物(教材)
1	聴覚障害とは何かを聴覚の発達とあわせて理解できる	教科書 配布資料
2	小児聴覚障害の概要と発達への影響について理解できる	教科書 配布資料
3	小児聴覚障害の原因と病態について理解できる	教科書 配布資料
4	早期発見と早期療育について理解できる	教科書 配布資料
5	小児難聴の聴覚評価について理解できる	教科書 配布資料
6	小児難聴の評価（聴覚評価以外）について理解できる	教科書 配布資料
7	コミュニケーションモードと指導法について理解できる	教科書 配布資料
8	乳児期の指導・支援における考え方について理解できる	教科書 配布資料
9	幼児期の指導・支援における考え方について理解できる	教科書 配布資料
10	学童期の指導・支援における考え方について理解できる	教科書 配布資料
11	情報保障と社会資源について理解できる	教科書 配布資料
12	聴覚特別支援学校の見学を通して聴覚障害児教育について理解できる	配布資料
13	聴覚特別支援学校の見学を通して聴覚障害児教育について理解できる	配布資料
14	視覚聴覚二重障害に対する評価・支援について理解できる	教科書 配布資料
15	まとめ	教科書 配布資料
	定期筆記試験	

【使用教科書・教材・参考書】
『標準言語聴覚障害学　聴覚障害学　第3版』　医学書院
『言語聴覚士テキスト　第4版』　医歯薬出版

【準備学習・時間外学習】
授業前後に予習復習を行う。

【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】
試験の結果を100点満点として成績を評価する。
試験は定期試験のみ実施し、60点以上の場合に科目を認定する。